

第9回

建コン
フォト大賞

あなたのお気に入りの“土木施設”

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために、平成21年度よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞」を毎年開催しています。「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに、道路や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など、私たちの日常生活を支える土木施設のある風景を撮影していただきました。

平成29年度も、当協会ホームページやフォトコンテストに関する情報提供サイトへの掲載、全国の高校写真部へのチラシ配布などで作品を募りました。その結果、全国の幅広い年齢層の方々から390点の応募をいただきました。

審査方法

ご応募いただいた作品は、審査委員（5名）による審査会にて審査しました。

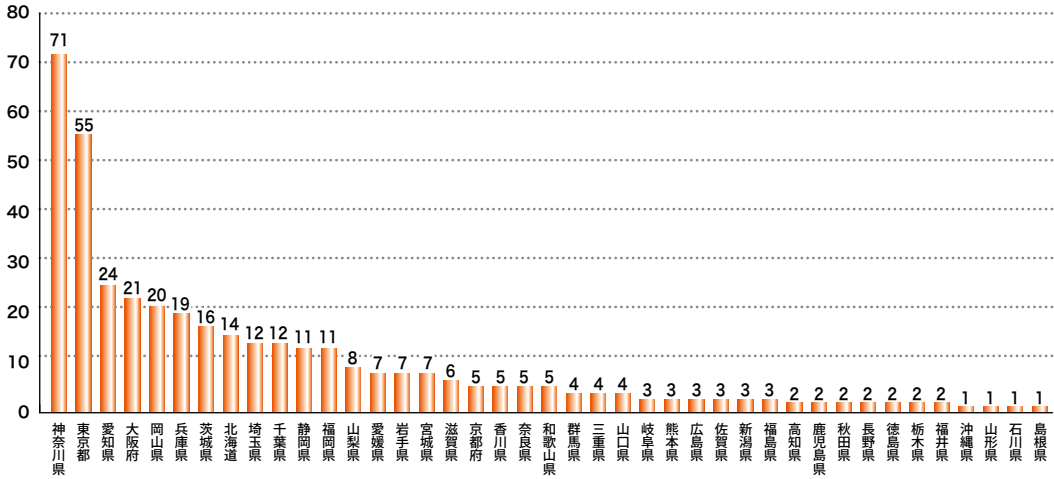
審査委員

審査委員長	宇於崎 勝也（日本大学教授）
	知野 泰明（日本大学准教授）
	八馬 智（千葉工業大学准教授）
	初芝 成應（日本写真作家協会員）
	野崎 秀則（建設コンサルタンツ協会広報戦略委員長）

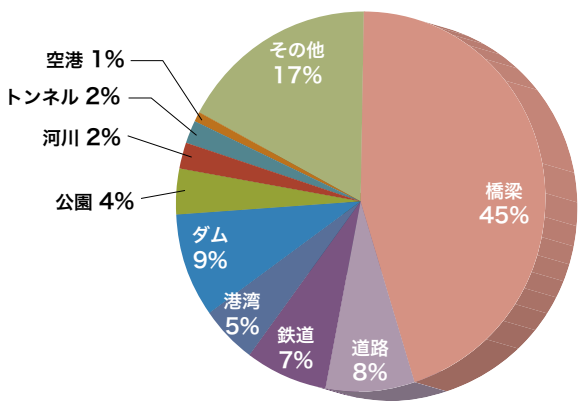
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞10点を決定しました。
入賞作品と講評は次ページ以降に掲載するとおりです。

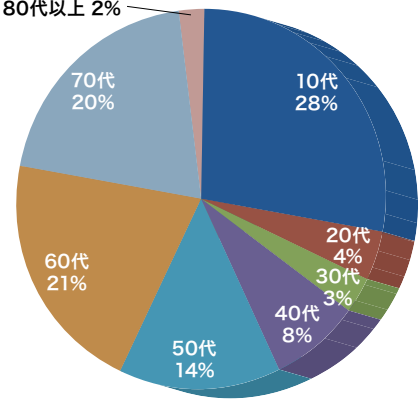
地域別の応募者



写真撮影の対象



応募者の年代



最優秀賞



「大自然とともに」

岡山県 竹端 正伸

（撮影地：鳥取県西伯郡大山町）

【撮影者のコメント】

まずこの写真を撮影した理由は、美しさの中に力強さを感じたからです。気持ちいいほどに青々とした空にどっしりと構える大山と季節感満載の紅葉、そして形の整った砂防ダムとが違和感なく1つの風景として成立しているところが素晴らしいです。まさに景色への一目惚れです。砂防ダムは人工物であり、自然の産物ではありません。しかし、周囲の景観に溶け込んで、砂防ダムまでも元からあったかのように感じさせてくれました。景色に感動するとともに、技術の高さに脱帽しました。

講 評

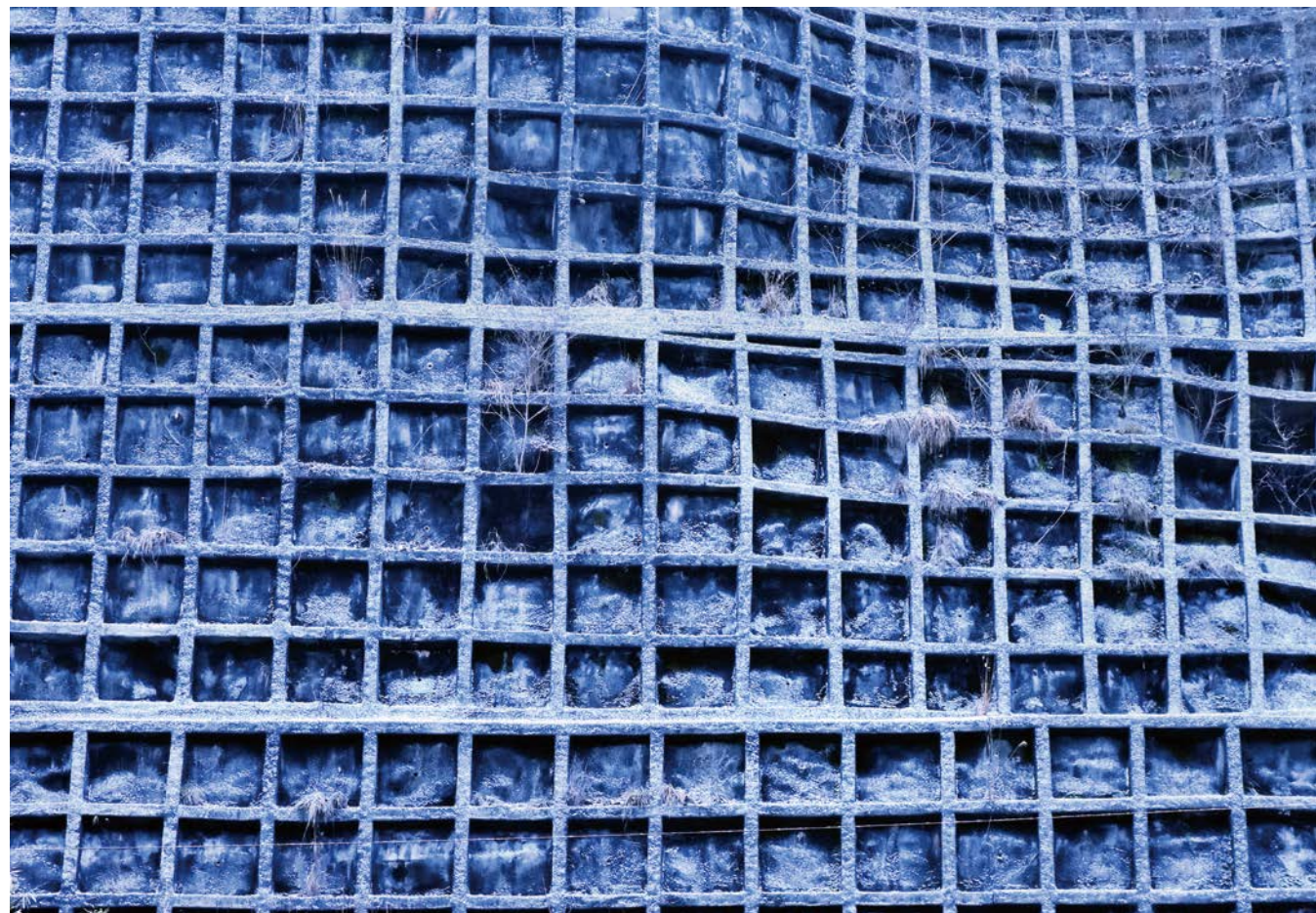
非常に安定感のある作品。雄大な大山を背景に、整然と連なる三の沢砂防堰堤が深い奥行きを感じさせる。この風景に色づき始めた紅葉が明るさと一層の深みを与え、土木構造物が自然の魅力をさらに高める役割を果たしている。（宇於崎審査委員長）

晩秋と初冬が織り成す山の風景。下は湖面に反射する冬の山肌と思いきや、リズム感を持って配置された石積みの真新しい砂防堰堤群。セザンヌが愛した南仏の山並みを思わせます。（知野審査委員）

背景の青空、浸食が進み白い山肌を見せる大山、カラフルな紅葉の樹林、直線で構成された無彩色の砂防堰堤が層状に構成されることで、自然と人為のコントラストが明快に示されおり、砂防施設のありようが美しく描き出されている。（八馬審査委員）

構図的に自然が織りなす紅葉樹木と歩く人物も入れてほぼ、3：7の割合で撮影されており、一見厳しい表情を見せている大山と手前の砂防ダムが、美しい紅葉に包まれた一景を、構図の工夫で一層作品を引き立たせている。（初芝審査委員）

大山と紅葉を背景に、砂防ダムが一体となって景観を形成している。自然の脅威から人々の命や生活を守る砂防ダムが自然景観に溶け込み、雄大な景観をつくりあげている。（野崎審査委員）



「草の集合住宅」

岡山県 藤元 麻未
(撮影地：岡山県岡山市)

【撮影者のコメント】

雪の降る日、通勤途中の土砂崩れ防止ブロックが気になり撮影しました。規則正しく組まれた正方形のブロックには草たちが顔を覗かせていて、そのひとつひとつのブロックが住処にも見えてきて、とても面白く感じました。

講 評

斜面の安定を図る目的のフリーフレーム工法を集合住宅に見立てた感性豊かな作品。土木技術をその目的とは全く異なる視点でとらえており、正に、凍てつく寒さに反してここに暮らす草たちの暖かな住処にも見えてくる。 (宇於崎審査委員長)

正方形に縫い合わされた網の目かと思いきや、切り立った山の斜面を留め押さえる法面保護工。数々の罅目に納まる草花が、陳列棚に収まりながら、いろいろな表情を見せています。 (知野審査委員)

無機的なのり枠工が凍てついた瞬間を切り取り、構造物の役割を切り離して大胆かつクールに風景を再構築している。日常の風景に潜む面白さを引き出すことで、観る者に新たな視点を投げかけている。青いトーンが印象的。 (八馬審査委員)

冬の雪降る法面の状況からは、寒々とした粗末な枯草の集合ブロック法面を想像するが、雪の早朝撮影の賜物か、染物のような抽象的模様仕上げに表現されている。土木の題材は身近な何処にでもあることを知らされた面白い作品です。 (初芝審査委員)

土砂崩れ防止ブロックを切り取った1枚。土砂崩れから地域を護る人工構造物が何か生命を宿しているように感じられる魅力がある。 (野崎審査委員)



「放 水」

東京都 浦崎 正江
(撮影地：熊本県上益城郡山都町)

【撮影者のコメント】

2014年の11月24日、鹿児島へ帰省した折り、友達と2人で通潤橋から高千穂方面へ向かう際に立ち寄りしました。前もって放水される時間を調べて行き、天候にも恵まれ放水が始まった瞬間、感激しながら夢中でシャッターを切っていました。初めて見る光景でしたので今だに目に焼きついています。2016年4月14日の熊本地震で被害を受け、現在は復旧工事のため放水休止とのこと。1日も早く、またあのすばらしい放水が見られるようになることを心より願っております。

講 評

熊本地震で被災した通潤橋の在りし日の姿に感激した。放水が五老ヶ滝川に着水する間際の一瞬をとらえている。通潤橋を被写体とした作品は数多く応募されているが、これほど決定的な瞬間は見事としか言いようがない。 (宇於崎審査委員長)

近世の農民の暮らしを救った通潤橋(1854年竣工)。中央から弧を描き落ちる噴水は、逆サイホンにて渓谷を渡す石造連通管を掃除します。160年を経た見事な石造アーチは震災を克服し、往時の勇姿に戻ります。 (知野審査委員)

熊本地震被災前の通潤橋で放水が行われる瞬間を、多くの人々が楽しんでいる様子が伝わってくる。ダイナミックな構図の中、逆光をうまく使うことで、放水が見事に浮かび上げられている。 (八馬審査委員)

「通潤橋」と言えば知る人ぞ知る撮影スポットだが、この作品は一気に放水されるエネルギーを捉えた、その力強さと両橋壁から出る放水を、水と光の屈折で生じる、色の織りなす変化を瞬時に捉えており、順光でない状況を巧みに生かした作品です。 (初芝審査委員)

通潤橋の放水の瞬間を撮影した1枚。馴染みのある通潤橋であるが、この1枚は、太陽の光が放水された水しぶきを際立たせ、より瑞々しさを感じさせる。 (野崎審査委員)



特別賞



「明日に向かう道」

秋田県 大場 建夫

(撮影地：秋田県由利本荘市)

【撮影者のコメント】

故郷の松の木峠にかかる「松の木トンネル」を抜けて隣町に買い物に行ってみました。このトンネルのなかった頃は丸1日がかかりで、荷物を背負って峠越えをしていたのです。子供の頃は山を越えて隣町に行くなんてことは考えたこともなかったのですが、このトンネルは周辺の生活範囲を広げてくれました。そういう意味でまさに「明日に向かう道」となってくれました。きっと将来も私たちの生活を支えてくれる道となってくれると思います。

講 評

光と土木構造物が成す一瞬の造形が写し留められました。鋭利で起立した白の連続は、土木構造物の律儀なデザインが為した業。リズム感のある影絵が見事です。



特別賞



「夕映えの高架橋」

沖縄県 仲程 梨枝子

(撮影地：沖縄県浦添市)

【撮影者のコメント】

国道58号浦添北道路で、牧港漁港をまたぐ橋梁工事です。1個ずつ橋脚ができ、順次橋が渡される工事進行を楽しみました。もうすぐ最後の橋が渡されます。ことさら夕陽が綺麗で橋とマッチしていました。

講 評

橋を繋ぐ仕事と、海原で糧を得る仕事。どちらも命がけの一日を労いながら、大きな夕日が没します。仕事を支えた数々の情熱が日の光に照らされて空を赤く染めました。



「白いカーテン」

滋賀県 寺尾 幹男

(撮影地：滋賀県甲賀市)

【撮影者のコメント】

当青土ダムは琵琶湖に流入する河川・野洲川の上流にあり、流域の洪水被害の軽減や流域市町の用水確保・供給のために建設されたダムです。最近のダム建設は環境や需要と供給やその他の要因などで建設の是非が問われています。当ダム本体はもとより周辺環境もよく整備され、家族等によく利用されています。また当ダムは個性的な形状のダムで変わった洪水吐を持っています。朝顔のような洪水吐に流れる水も濁った水も白いカーテンのように吸い込まれていく様は迫力があり撮影者も吸い込まれるように感じました。

講 評

静かな水面が突如として洪水吐に吸い込まれる幻想的な様子。茶色に濁った水が辺縁部のダークグリーンを経て白いレースのような泡に至るグラデーションとコンクリート構造物の特徴的な造形が捉えられ、非日常感を際立てている。



「廃線跡に行く」

大阪府 廣瀬 靖之

(撮影地：兵庫県西宮市)

【撮影者のコメント】

旧JR福知山線の廃線跡が、地元の強い要望や来訪者が絶えないこともあり、2016年11月、ハイキングコースとして一般開放されました。原形を残した廃線敷の価値を損なわない範囲で安全対策工事が実施されています。数多いトンネルと鉄橋、そして武庫川の渓谷美が楽しめます。この日も多くのハイカーが訪れており、自然だけではなく、近代産業に関心を持つ人も引きつけているとのことであり、その魅力を伝えたいと思いました。

講 評

元福知山線の廃線跡の暗いトンネル内から、緑鮮やかな樹木の背景に、如何にも土木遺産を漂わせる存在感ある錆びついた鉄橋と、ワンちゃんと共にハイキングをするコースガイドの姿がとても微笑ましい薄暗いトンネルを抜けると、明るい未来を感じる作品です。

特別賞



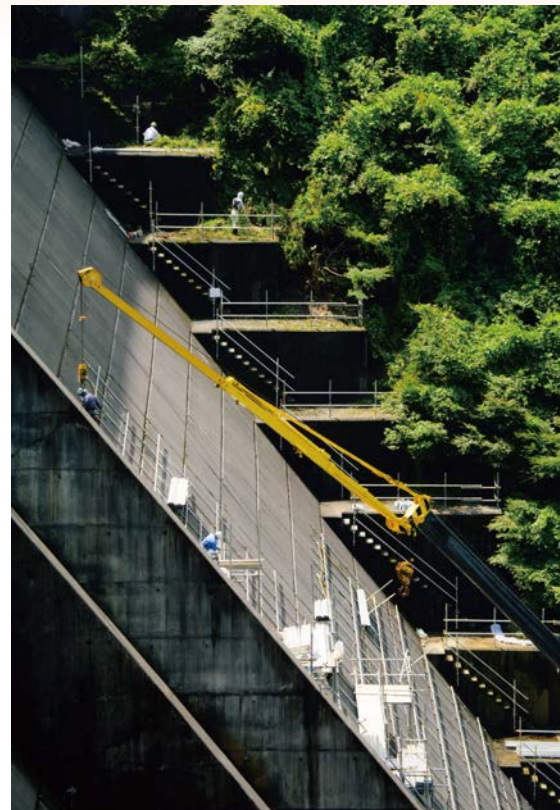
「岩礁に立つ」
鹿児島県 山田 宏作
(撮影地：宮崎県日向市)

【撮影者のコメント】
岩礁に立つ美々津港灯台は、空撮するとその素晴らしさがさらに広がります。

講 評

空撮で捉えた岩礁の美しい様子は、上陸しては到底捉えられない全体の姿を捉えており、空撮ならではの壮観な姿を見ることができる。

特別賞



「^{まも}護る」
奈良県 南田 至啓
(撮影地：奈良県天理市)

【撮影者のコメント】

1978年に竣工し、40年近くになる天理ダムですが、このようなダム壁での作業は初めて目にする光景でした。維持点検、補修のためモザイク模様のように組みあげられる足場や無駄のない動きで作業する人達、その作業を補佐する逞しいクレーンのアーム等全てが朝の光の中でとても綺麗でした。全国で見られる異常な天候は激しい雨を降らせ、河川の急な増水をもたらします。その水をコントロールする為のダムの点検作業は下流に住む人々に少なからずの安心を与えてくれるものです。

講 評

下流域の利水・治水に貢献するダム。多くの努力の積み重ねにより、下流域の人々の暮らしをまもっていることを感じられる1枚です。



「錦帯橋と鵜飼」
愛知県 長谷川 敏則
(撮影地：山口県岩国市)

【撮影者のコメント】
錦帯橋は、木製の5連アーチ橋であり日本三奇橋の1つとされています。また、夏の夜、歴史的な橋梁を背景に行われる錦川の鵜飼も有名です。鵜飼が終わり、船を岸に着け鵜たちは、かがり火で濡れた羽根を乾かします。本日の漁について反省会をしているのでしょうか、鵜匠と鵜の眼差しが真剣です。錦帯橋と鵜飼どちらも歴史的な重みを感じます。

講 評

錦帯橋を背景に夜の錦川で鵜匠と鵜が語りあうかのような姿が篝火に照らし出され、静と動の美しい対比をとっている。土木構造物の名勝・錦帯橋を引き立て役に、鮎を獲るために飛び込もうとする鵜の凛とした姿も美しい。



「時を超えて」
岡山県 森川 克巳
(撮影地：長崎県長崎市)

【撮影者のコメント】

江戸時代にかけられた眼鏡橋が今でも日常的な橋として大切に使用されており、川沿いの遊歩道を引き立てるアクセントとして際立つ存在です。また、台風の多い長崎で長期間に亘り、風雨に耐え美しい姿を保っています。ランタンフェスティバルで初めて訪れてみて、後世まで残したい貴重な遺産と思います。私をはじめ皆が、環境保護あるいは構造物保守の大切さを忘れずにいることが必要だと思います。そういう気持ちを込めて撮った写真です。

講 評

ランタンフェスティバルで風景のアクセントとなっている眼鏡橋。江戸時代に作られ、風雨に耐え、現役で活躍する土木遺産。これからも地域の暮らしに寄り添い、活躍を期待したくなる1枚です。

特別賞



「霧の大鳴門橋」

徳島県 川内 秀喜
(撮影地：徳島県鳴門市)

【撮影者のコメント】

鳴門海峡に霧が発生し、大鳴門橋の足もとを包む幻想的な光景に出会え感激しました。

講 評

鳴門海峡が霧に埋まり大鳴門橋の橋脚を隠して、雲の上に橋が浮かんだような不思議な光景を見事に切り取っている。橋を対象とした応募作品は多いが、これまで幻想的な姿をとらえたものは稀有である。



「ハッ場ダム昼夜施工決行中」

東京都 櫻井 幸夫
(撮影地：群馬県吾妻郡長野原町)

【撮影者のコメント】

長野県・群馬県内の風景を撮影に行く時、何時もハッ場ダムの工事の進捗状況が気になり、着工よりその都度撮影を行っています。最近の施工中の写真です。

講 評

ダムの堤体がつくられると見ることができなくなる常用洪水吐の放流管の姿や周辺の切土のり面の様子を、工事中照明によって浮かび上げている。夜間にも続けられているダム建設現場のダイナミズムが、よく表現されている。

[入賞作品マップ]

